

第32回

うつのみやこども賞だより

平成27年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『それぞれの名前』

春間美幸／著（講談社）



～読んだ本の感想より～

- 登場人物それぞれがいろんなひみつや問題をかかえていて、それを解決していくそうかいな本だから、読んでいて楽しかった。
- チュー（チカ・ユカ）などのたくさんの人の気持ちで一つの物語ができていて、すごいと思った。一人の気持ちだけの話ではこれほどは面白くなかったと思う。
- 人には、それぞれちゃんとした名前があり、一人一人みんなちがうのだと思うことができます。すごい本だと思いました。
- みんな少しは名前がいやになるときがあるんだ

なと思った。

- なぜか、自分の名前の由来をしりたくなりました。
- 名前にほこりもち、大切にしていこうと思った。

『幽霊魚』

福田隆裕／著（講談社）

- 知希が、島で生活していくとともに、いろいろなことを体験し、いろいろなことを学び、成長していくすがたがカッコよかったです。
- 幽霊魚を探すことを続けるしんぼう強さがよかったです。
- いつまでも過去にしがみついていないで、前に進もうと思わせてくれた本でした。
- ストーリーがどんどんすすむので、読んでいてワクワクしました。方言がはいていただけれど、よみやすかったです。
- トモキが自分の思いを口にしたことで、心のモヤモヤが解決できてよかったと思った。
- 幽霊魚は知希と英治をつなぐ大切なものなんだなと思った。

『あま〜いおかしにご妖怪？』

廣田衣世／著（あかね書房）

- 自分の家にも妖怪いたら、パーティが出来て楽しそうでした。
- たしかに仕事場に悪さをしない妖怪がいたら楽しいだろうな。
- 妖怪とコラボのおかしやさんだったら、私もそのおかしを食べてみたいと思いました。
- ようかいと協力して作っているところがすごくよかった。和がしがすごくすきになった。
- 物に感謝の気持ちを持つとうと思った。
- こまめが妖怪にすげすげとものを言っていたところがすごいとおもったし、おもしろかった。

『みずがめ座流星群の夏』 杉本りえ／著（ポプラ社）

- 家の事情をかかえながらも、良い友人に相談できることはやはりいいことだと教えてくれた1さつでした。
- 花と莉子のような友達がほしいと思った。
- おじいちゃんと話せなくなるのに、お兄ちゃんを助けてくれたやさしさが伝わりました。
- おじいちゃんをたよりにしていた花が自分から物事を解決できるようになっていくところが、すごいなと思った。
- 流星群をみて、願いごとをしたい。流星群はきっときれいだと思います。

平成27年 9月 6日